

モデルプログラム N-1 成長する教師－省察的実践家とは－

ねらい	内省的実践家について知り、自身の外国人児童生徒等教育・支援の実践について振り返ることを通して、教師としての成長を意識して実践にとりくめるようになる。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input checked="" type="checkbox"/> 5年-9年 <input checked="" type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	N 成長する教師
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 教師のキャリアについて意識する（15分） ・教師としての成長（N）  2. 「成長する教師」のイメージを描く（15分） ・省察的実践家（N）  3. 外国人児童生徒等教育を体験したことを振り返る（20分） ・日本語教育に関わる専門性（N） ・外国人児童生徒教育の専門性の向上（N）  4. 成長のための新たな視点について考える。（10分） ・社会への働きかけ（N） ・新しい価値の創造（N）	1. 教師が自身の教師生活を振り返る事例を読み、そのキャリアを次の点から検討し、意識化する。 ・教育観とその変容 ・キャリアステージ（着任⇒ミドルリーダー⇒シニアリーダー） ・力量形成（実践力・専門性・組織運営の力） ・個人的経験と教師としての経験  2. 講義と話し合いを通して「成長する教師」のイメージをもつ。 1) 講義を通してドナルド・ショーンの「省察的実践家」について理解する。 ・実践的認識論（「技術的な熟練」の限界） ・行為のなかの省察（内省） 2) 教師（教員・支援員）は何をきっかけに変容するのか、省察の役割は何かを話し合い、「成長する教師」のイメージをつくる。  3. 外国人児童生徒等教育・支援に携わって、教師（教員・支援員）としてどのような点で成長したかを振り返る。 1) この教育・支援に携わって感じてきた困難について、その具体的な経験と、その解決のためにどのようなチャレンジをしたかを話し合う。 例「来日直後の児童とは、日本語でのコミュニケーションができなかった」「保護者の教育観と学校の教育方針が異なり、進路指導の時に、理解が得られなかった。」 2) 上記の経験で、何を学んだかを整理する。 ・自身の対応・支援で、子どもがどのような反応をしたのか、保護者はどう応じたのか。そこに、どのような変容があったのか。 ・それは、対応・支援の仕方の何が機能したのか。 ・この経験から何を学んだか。  4. 外国人児童生徒等教育・支援の実践者として成長するために、実践において重要なことについて話し合う。 ・地域のボランティアの方やコミュニティとの協働 ・自己研修や実践を共有する機会を得る ・自己の価値を常に問い直す
備考	・15分程度で扱う場合は、2を中心として取り扱う。 ・教職課程の科目で取り扱う場合は、4年次の「教職実践演習」等が適当。また、

	その場合は、経験について振り返るのではなく、今後現場で経験するであろう外国人児童生徒等の指導や対応について想像しながら話し合わせる。
--	--